第72回全国造形教育研究大会
第70回造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会
第55回愛知県造形教育研究協議会
第59回名古屋市造形研究発表会
2019 愛知
全国造形教育連盟
日本教育美術連盟
合同研究大会
愛知大会
令和元年11月
21日(木)・22日(金)
感性豊かに 共に生きる

大　会　報　告　書

「全国造形教育連盟 日本教育美術連盟 合同研究大会 愛知大会」を終えて

愛知大会　大会会長

彦坂　隆之

「令和」という新しい時代の幕開けの年に、「全国造形教育連盟　日本教育美術連盟　合同研究大会　愛知大会」を開催いたしましたところ、全国各地から１，２７５名という大変多くの皆様にご参加いただくことができました。主催者として、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

愛知・名古屋にとっては１０年ぶりの全国大会でしたが、時代は「働き方改革」が叫ばれるようになり、できる限りシンプルな運営に心がけてまいりました。ご参加いただいた皆様には、「物足りない」「不親切」な点があったかもしれませんが、何卒ご容赦いただきたいと存じます。

さて、文部科学省初等中等教育局視学官の東良雅人先生から、ご講演の中で「Society 5.0時代の学校教育・教師の在り方が議論される中、芸術教育が期待されている」「だからこそ期待に応えられる教育内容にしていかなければならない」というお話がありました。

また、同じく文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の岡田京子先生は、ご講演の最後に、「愛知大会のテーマは本当に深いなと思います。感性豊かに共に生きる子どもたちを育てていきたいと思いますし、私自身も感性豊かに共に生きたいと思いますし、先生方にも感性豊かにいろいろな人と共に生きていく人生、素晴らしい教員人生を送っていただけたらと思います」とおっしゃってくださいました。

本大会が「成功であった」と言えるかどうかは、これから研究や実践に携わる者が、「どれだけ学習指導要領の趣旨や内容を理解し、意識して授業改善をしていけるか」にかかっていると思います。開催地である愛知・名古屋といたしましては、大会を終えたことに安堵するのではなく、大会を新たな出発点ととらえ、今後も、「感性豊かに　共に生きる」を心に刻み続け、研究・実践に努めていきたいと思っています。

最後になりましたが、愛知大会の開催にあたりまして、多大なご支援とご協力をいただきました全ての皆様に、心より感謝を申し上げ、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

大　会　日　程

11月20日(水)

日本教育美術連盟　　全国理事会　18:00～　　会 場　ローズコートホテル

11月21日(木)

全体会　　会 場　日本特殊陶業市民会館

全国造形教育連盟			
受付 9:00～	校種別会議 9:30～		全国代議員会 10:45～

全体会受付 12:15～	全体会 13:00～	講演 岡田京子氏 13:30～ 東良雅人氏 15:00～	全体会 16:30～

レセプション　18:30～　　会 場　キャッスルプラザ

11月22日(金)

◆名古屋市立大幸幼稚園（公開保育）

受付9:15～	公開保育 9:30～10:45	保育研究協議 11:00～11:30	昼食・移動	◆名古屋市博物館 （実践研究協議） 受付 13:00～ 保育実践研究協議 13:30～16:00

◆名古屋あかつき幼稚園（公開保育）

受付9:45～	公開保育 10:15～11:00	昼食・移動

◆名古屋市大池保育園（公開保育）

受付9:15～	公開保育 9:30～10:45	保育研究協議 11:00～11:30	昼食・移動

◆御田クローバー保育園（公開保育）

受付8:50～	公開保育 9:20～10:20	保育研究協議 10:25～11:30	昼食・移動

◆名古屋市立なごや小学校（公開授業・実践研究協議）

受付9:00～	公開授業① 9:45～10:30	公開授業② 10:50～11:35	昼食	授業実践協議・実践研究協議・講評 13:00～16:00

◆名古屋市立穂波小学校（公開授業・実践研究協議）

受付9:00～	公開授業① 9:50～10:35	公開授業② 10:50～11:35	昼食	授業実践協議・実践研究協議・講評 13:00～16:00

◆名古屋市立豊岡小学校（公開授業・実践研究協議）

受付9:00～	公開授業① 9:40～10:25	公開授業② 10:45～11:30	昼食	授業実践協議・実践研究協議・講評 13:00～16:00

◆名古屋市立伊勢山中学校（公開授業・実践研究協議）

受付9:00～	公開授業① 9:50～10:40	公開授業② 10:55～11:45	昼食	授業実践協議・実践研究協議・講評 13:00～16:00

◆名古屋市立瑞穂ヶ丘中学校（公開授業・実践研究協議）

受付9:00～	公開授業① 9:50～10:40	公開授業② 10:50～11:40	昼食	授業実践協議・実践研究協議・講評 13:00～16:00

全　体　会（前　半）

○日　時　　令和元年１１月２１日（木）１３：００～
○会　場　　日本特殊陶業市民会館（名古屋市中区）

全体会　開会式の様子

来　賓

◆主催者　挨拶

全国造形教育連盟委員長
大野正人　挨拶

今回　全国造形教育連盟 日本教育美術連盟 合同研究大会 愛知大会を開催できることを大変ありがたく受け止めております。愛知県は豊田自動車をはじめ　ものづくりまちづくりが非常に活性化しております。

大会の記録をひもといてみましたら、今回は、第７２回全国造形教育研究大会ではございますけれども、第１回大会が愛知県一宮市で開催されております。そして、第３３回大会も愛知県で開催されております。このような日本の中央に位置するところで、このように全国からのみなさんをお迎えして研究大会を開催できること、本当にうれしく思います。

（挨拶より）

日本教育美術連盟理事長
藤丸一郎　挨拶

まずはじめに、全国造形教育連盟 日本教育美術連盟の 合同研究大会 愛知大会にこうして全国よりご参会くださいましたこと、誠にありがとうございます。心より歓迎を申し上げます。南北に細長い日本列島の中央部で、どちらからも移動しやすい愛知が会場です。これだけの場の設定ができました。あとは私たちが子どもの姿をしっかりとイメージしながら、交流し、工夫して、みんなで新たな流れを作り出すだけではないでしょうか。

さあ、二日間しっかり話し合って新たな流れを、みんなでつくっていきましょう。

（挨拶より）

大会会長　彦坂隆之 挨拶

前回の合同大会、岐阜大会への参加を出発点として、４年間準備を進めてきました。昨年実施したプレ大会にも、東良先生、岡田先生にお越しいただきました。あれから1年が経ちましたが、どこまで改善できたか、正直あまり自信があるとは言えません。どうか、会場の皆様、今日はお二人のお話をしっかりとお聞きいただき、その上で、明日、９つの会場校・園での公開授業・公開保育・実践発表をご覧ください。そして、研究協議の場で、まだまだ不十分な点について、忌憚のないご意見やご感想をいただきたいと存じます。それが、名古屋・愛知にとって明日からの糧になります。そして、大会が終わった後も、引き続き、子どもたちのために、よりよい授業・保育を目指していく原動力になります。　（挨拶より）

◆来賓　祝辞

文部科学省初等中等教育局視学官
（文化庁参事官（芸術文化担当）付教科調査官）
東良　雅人　様　　祝辞

２０１９年全国造形教育連盟・日本教育美術連盟　合同研究大会が全国各地の多数の先生方のご参加のもと、愛知の地で盛大に開催されますことに対し、心よりお喜びを申し上げます。この愛知大会では、「感性豊かに、共に生きる」という大会テーマのもと、４つの視点を重要視した授業、保育の実践を通して、育むべき子どもの姿を明らかにする、まさに、これからの社会が求めている資質・能力の育成と、軌を一にするものと考えております。

本大会での様々な取り組みが、今後の創造活動を通した教育の一層の充実に資する成果として、実を結びますことを、心よりご期待申し上げる次第です。　（ご祝辞より）

愛知県教育委員会教育長
長谷川　洋 様 祝辞

ようこそ、愛知県へお越しいただきました。心から歓迎いたします。

さて、いよいよ来年度から順次、新学習指導要領の全面実施が始まります。めまぐるしく変化する時代の中で、子どもたちには、社会や人生を人間ならではの感性を働かせて、より豊かなものにし、たくましく生き抜いて行くことが期待されています。子どもたちの豊かな人間形成のために造形美術教育は、大きな役割を果たしています。

本会でご協議をいただく研究成果を十分生かし、学校での造形活動を通して、子どもたちが育むべき資質や能力を発揮できるよう引き続きご尽力をいただきたいと存じます。　（ご祝辞より）

名古屋市教育委員会委員長
鈴木　誠二 様 祝辞

このたびは、全国造形教育連盟 そして日本教育美術連盟の 合同研究大会 愛知大会がこの名古屋市を会場として開催されますこと、心からお喜びを申し上げます。「感性豊かに　共に生きる」を主題に掲げて子どもたちの造形教育を全国各地からご参集の皆様と論じ合う、本大会の開催は名古屋市にとりましても、大変意義深いものと考えております。公開授業では、子どもたちがつくる・かくなど表現を深め、喜びを感じながら活動する場面を多く見ていただけるものと期待をしております。本大会で深められますこの成果をぜひ、全国各地の皆様の市町で、広めていただければ幸いに存じます。　（ご祝辞より）

◆基調提案

「感性豊かに　共に生きる」 ……今大会のテーマです。

　このテーマに，私たちは，「直感や感覚、感情などを働かせ、造形活動に取り組むことで、感性がさらに豊かになり、共に生きる力を身に付けてほしい」という願いを込めました。
　テクノロジーは、世界との距離を縮めました。手軽に人と人を結び、だれとでもつながることができるようになりました。しかし、インターネットやSNSなど、短く省略された情報は、自分と違う考えや意見を受け入れることを難しくしているようにも思えます。このような時代に生きる子どもたちのために、私たちが大切にしたいことを４つの視点としてまとめました。

諸感覚を働かせること：やぶくと「ビリビリ」音がするね。このねじを「グリグリ」。意外と堅いな木のにおいがするね。
　いろいろな感覚を働かせながら、体全体を使って活動してほしいと思います。

理想の希求：光を通したら、赤い色が紙に映ったよ。赤の上に黄色を重ねたらもっときれいになるね。
　活動の中から、面白さや楽しさに気付き、自分の理想を追い求めてほしいと思います。

創造をすること：教室にはったロープにハンガーを掛けてみると、滑り落ちてきたよ。材料が風をうけてひらひらするな。もっとひらひらする材料を付けてみよう。
　工夫を凝らし、自分にとって新しいものをつくりあげてほしいと思います。

共感と寛容さ：これが私の妖精です。みんなでつくった妖精の遊び場に一緒にいこうよ。この滑り台広くて楽しいね。私も楽しそうだから滑りたいな。
　作品に込められた主題に共感しながら、活動してほしいと思います。それがやがて、他者の考えも受け入れる寛容さにもつながると考えます。

【幼稚園・保育園の取り組み】
　テーマは、おもしろそう！やってみたい！たのしいね！です。幼稚園や保育園では、育みたい資質・能力に着目し、取り組むこととしました。
　日常生活で、「きれいだな」「なんだろう」と触ったり、音で感じたりするなど、諸感覚を働かせ、「ふしぎだな」「どうしてかな」「こんなふうにしたらどうなるかな？」と考え、想像を膨らませてほしいと思います。そして、「いっしょにやろうよ」と友達と共感しながら楽しく取り組んでほしいと思います。これらの取り組みが、やがて、自分の理想を希求することや、寛容さにもつながっていくと考えます。

【小学校や中学校の取り組み】
　小学校や中学校では、４つの視点を基にした題材づくりに加え、次期学習指導要領も意識しながら、「育みたい資質・能力の明確化」について、「造形的な見方・考え方を大切にした学習過程」についても意識しながら授業づくりを進めてきました。
　今大会では、右の３つを指針として、「感性豊かに共に生きる」というテーマに迫ることとしました。
　題材開発につきましては、先ほどの４つの視点を、題材の価値として、内容に盛り込み、題材づくりを行いました。資質・能力につきましては、新学習指導要領に基づき、３つの観点でまとめました。新しい学習指導要領では、能動的な学びのために、「主体的な学び・対話的な学び・深い学び」の視点から、授業改善を推進していくことが示されました。
　「深い学び」の実現のためには、「各教科の見方・考え方」が重要だとされています。

　そこで、私たちは、各題材を開発するにおいて、「深い学び」の実現に向けて、「造形的な見方・考え方」を大切にした上で、「主体的・対話的な学び」のある学習過程を工夫しました。
　本大会の授業を通じて、「感性豊かに　共に生きる」子どもたちを育て、未来に向かっていってほしいと思います。

全　体　会（後　半）　講演会後、１６：３０～

◆大会宣言　大会実行副委員長　豊橋市立谷川小学校長　　鈴木　良和

大会宣言

新しい学習指導要領が、幼稚園ではすでに実施されており、小学校では来年度から、中学校では再来年度から全面実施されます。

小学校の図画工作科、中学校の美術科における「教科の目標」には、次のようにあります。

> **表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、小学校では、生活や社会の中の形や色と、中学校では、生活や社会の中の美術や美術文化と、豊かに関わる資質・能力を育成する**

これが、子どもたちが「教科で学ぶ」ことです。今回の改訂で、このことが明確に示されたわけですから、私たちは、十分に理解した上で「子どもたちが学ぶことができる」授業・保育を構築していかなければなりません。

子どもたちを取り巻く社会は、人工知能の進化などによって加速的に変化しています。今後、ますます予測が困難で、正解のない問いに立ち向かっていかなければならない時代になると言われています。

しかし、学習指導要領の総説には、次のような一文もあります。

> **人工知能がどれだけ進化し思考できるようになったとしても、その思考に目的を与えたり、目的のよさ・正しさ・美しさを判断したりできるのは人間の最も大きな強みである**

この強みを、より確かなものにしていく礎（いしずえ）となるのは、造形教育で育む「感性」や「豊かな生活を創造する態度」であると確信しています。

愛知大会では、テーマを「感性豊かに　共に生きる」と掲げました。子どもたちが、感性を豊かにして、周りの人と共に生きる資質・能力を学ぶことができる授業や保育について、ご参会の皆様と一緒に考え、大いに語り合いたいと考えております。

そして私たちは、これからも、子どもたちのために、全国の皆様とともに、一層、造形教育にかかる研究・実践に努めることを、ここに宣言いたします。

令和元年１１月２１日

全国造形教育連盟　日本教育美術連盟　合同研究大会　愛知大会

◆次期開催県　大会旗引き継ぎ・挨拶

○第７３回全国造形教育研究大会　次期開催県
　千葉県代表　千葉県教育研究会造形教育部　会長　椎名　和浩　氏　　挨拶

全国造形教育連盟 次期大会開催県
千葉県へ連盟旗を愛知より引き継ぎ

千葉で開催するのは１１年ぶりになります。今回は千葉大会「成田２０２０」ということで会場は成田市になります。成田大会では、「造形教育はこれからも未来をつくる　身につけさせたい力は何かを問う」これを大会テーマとしまして　現在、会場となります成田小、成田中、そしてくすのき幼稚園のほうで、めざす資質能力の三つの柱や、主体的対話的で深い学びの視点に立った授業改善を進めております。当日は、子どもたちの生き生きした姿から、その成果を是非皆様にご覧いただければと考えております。

それでは皆様、来年の１１月、皆様のお越しを心待ちにしております。

【開催日】令和2年11月20日(金)･21日(土)
全体会場:ヒルトン成田

○第７１回造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会　次期開催県
　佐賀県代表　佐賀県造形教育研究会　会長　栗山　裕至　氏　挨拶

日本教育美術連盟 次期大会開催県
佐賀県へ連盟旗を愛知より引き継ぎ

今大会の成果を踏まえ、造形美術教育のいっそうの躍進へと向かうべく来年度、第７１回造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会を九州佐賀県にて武雄市及び杵島郡の各地を会場として開催をいたします。大会テーマは、「子どもがつくる、子どもが主役の造形教育」開催期日は２０２０年１１月１２日・１３日の二日間です。学校そして、子どもたちを取り巻く状況が、大きく変貌を遂げる昨今ではありますが着実に理論研究と試行実践を重ね、一年後にその研究成果を披露できますよう、佐賀県一丸となって歩みを進めているところです。どうか、来年度の佐賀大会にも、皆様、足をお運びくださいますよう、お願いいたします。

【開催日】令和2年11月12日(木)･13日(金)
全体会場:武雄市文化会館

講　演　①

新学習指導要領の趣旨を踏まえた図画工作科の授業づくり
～子供の姿から、育成を目指す資質・能力について考える～

岡田　京子　氏
文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
文化庁参事官（芸術文化担当）付教科調査官

【講演内容の要約】※岡田先生にお話いただいた言葉そのままではありません。

【本来備わっている力を伸ばす】

まず、「子どもは一人一人、感じたり考えたり表したいと思うことが違う」という認識に立って子どもを見ることがとても大切です。「教科の目標」の解説にあるように、まずは「児童自身に本来備わっている資質・能力を一層伸ばし」という立場に立つことです。

【新学習指導要領について】

「教科の目標」の柱書に、今回（全教科に）「見方・考え方」が入りました。図画工作科では「造形的な見方・考え方」です。授業に際しては、「子どもが感性や想像力を働かせ、対象や事象、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら、意味や価値をつくり出す」活動を目指し、授業後には「造形的な見方・考え方」が働いていたかと振り返ることが大切です。

「教科の目標」の構造は、「生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力」を「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」の３つの柱で整理しています。図画工作科で育成を目指す資質・能力は、「発想や構想すること」「技能を働かせて表すこと」「鑑賞すること」、それらに関わる〔共通事項〕（造形的な視点について理解すること・自分のイメージをもつこと）と、感性や情操など「学びに向かう力，人間性等」が関わることです。

「知識」とは、「対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解する」ことです。学習指導要領では、このことだけを「知識」として整理しています。

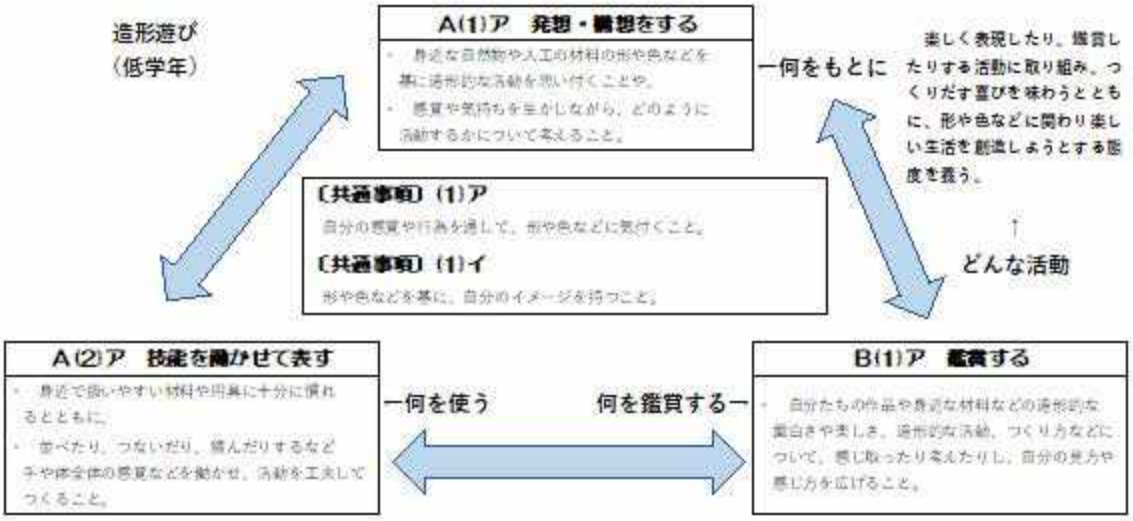
「造形的な見方・考え方」とは、「感性や想像力を働かせ、対象や事象、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと」です。

「対象や事象、形や色などの造形的な視点で捉える」という「見方・考え方」をすることによって「造形的な視点」について理解し、また「見方・考え方」を働かせるようになるので、さらに「造形的な見方・考え方」が豊かになり、鍛えられていきます。

「自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと」とは、「創造性(クリエイティブ)」に関わることです。小学校では「創造」という言葉を３つの柱に位置付けました。

「造形的な見方・考え方」を働かせることによって、「資質・能力」が育成され、「造形的な見方・考え方」が豊かになり鍛えられていくという構造です。評価するのは「資質・能力」だけであり、「造形的な見方・考え方」は「働かせるもの」ということで、直接的に評価はしません。（相互に）「支え合う関係」になっています。

【題材の目標　評価規準のつくりかた】



この図は、「発想や構想する」「技能を働かせる」「鑑賞する」のところに、学習指導要領に示されている内容の文章を入れ込んだものです。ここでは、低学年の「造形遊び」の例を示しています。１・２年生では、どのような造形遊びでも、この「指導事項」を実現すればよいのです。右上の部分は、「学年の目標の(3)」からもってきています。それは、「学習指導要領の内容」には、「学びに向かう力、人間性等」に関わるものは示していないからです。ここには「楽しく表現したり鑑賞したりする活動」と書かれていますが、ここを具体的にどんな活動かと置き換えるだけで、題材の指導事項ができるようにつくってあります。ということは、指導する内容を押さえることが、「題材の目標」を設定することにつながり、「評価規準」が作成できるということです。
絵や立体、工作でも同じです。感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けること、何から表したいことを見付けるのか、何を使うのか、何を鑑賞するのか、どんな活動なのか、という点を書き換えるだけで、その授業ができていきます。

２年間の移行期間において「課題」だと思うことは、Ａ表現(1)イの「感じたこと想像したことから表したいことを見付けること」、「造形遊びの、身近な自然物や人工の材料や形の色などを基に造形的な活動を思い付くこと」です。「表したいことを見付ける」のは子どもなのに、そこが抜けている授業が多いのです。「表したいことを見付けるきっかけ」がない授業は、先生が表したいことを決めてしまっている授業だと思います。「何をきっかけに子どもが表したいことを見付けるのだろうか」というところは、丁寧にしっかり考えていただきたいと思います。

「学習評価」改善の基本方針は、「児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと」「教師の指導改善につながるものにしていくこと」「これまで慣行として行われてきたことでも、必要性妥当性が認められないものは見直していくこと」です。

中学年の「のこぎりざくざく　うまれる形」という、「木を先生が切るところを見て、実際に切って、組み立てて、さらに切って、つくって、最後鑑賞する」題材があります。
（この題材を先ほどの図に）「何をきっかけにしているのか」「何を使うのか」「何を鑑賞するのか」「どんな活動なのか」を当てはめてみました。

「題材の目標」は、指導事項を(1)「知識及び技能」(2)「思考力,判断力,表現力等」(3)「学びに向かう力,人間性等」で集めることでつくることができます。まずは指導事項を押さえ、その後に目標を考えるということです。

「題材の評価規準」を「題材の目標から作成する方法」で説明します。まず、(1)(2)について、文章を「何々している」とします。基本的には、資質・能力で整理をし、資質・能力の視点で題材の目標を立てますので、それができているかどうかを評価すれば、「文末を変えるだけで評価基準になる」という考え方です。（小も中も、どの教科も）。「分かる」を「分かっている」、「表す」を「表している」とします。

「学びに向かう力,人間性等」の中には、「観点別学習評価ができるもの」と「そぐわないもの」があります。「そぐわないもの」は、例えば「感性」や「思いやり」などです。これらは「個人内評価」として、「観点を立てては評価をしない」ということです。「つくりだす喜びを味わう」というのも、「味わっているかどうか」は、正確に分かるものではありません。なので、その部分は文頭にして「つくりだす喜びを味わい進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表す学習活動に取り組もうとしているか」というように、一連の一つの姿として見ていきます。また、「取り組んでいる」ではなく、「取り組もうとしている」になります。「その子の意志的な側面も含めて、取り組もうとしているかどうかというところも見ていきましょう」と整理をしています。

大切なことは、「題材の目標」と「評価規準」にズレがないということです。「指導と評価の一体化」がより一層進んだとご理解いただければと思います。

【みんなで力を合わせて】

全面実施がもう来年に迫っていますが、「３つの柱で整理をしたこと」「子どもの思いを大事にする」ということが、予想以上に早く浸透しているなと実感しています。やはり、「みんなで力を合わせて子どもを育てていく」ことが大事になりますので、是非、それぞれの地域で、子どもを中心にして、新しい学習指導要領を理解して、教育課程の実現を目指していただきたいと思います。

講　演　②

美術科において育成を目指す資質・能力と学習内容との関係を明確にした授業づくり
～子どもたちのことを一番よく知っている教師が、子どもたちの一番学べる授業を考える～

東良　雅人　氏
文部科学省初等中等教育局視学官
文化庁参事官（芸術文化担当）付教科調査官

【講演内容の要約】※東良先生にお話いただいた言葉そのままではありません。

【Society5.0時代の到来にこそ期待される芸術教育】

平成31年4月17日に示された「新しい時代の初等中等教育の在り方について（諮問）」において「Society5.0時代」には、「読解力や情報活用能力、教科固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力等が必要」と述べられています。これらの資質・能力は、私たちが普段の図画工作や美術、造形表現の中で子どもたちに身に付けさせたいと考えている教育と大きく離れたものではありません。しかし、私たちは「絵を描かせたり、ものをつくらせたりする行為が持つ意味」を考えて子どもたちに指導しているでしょうか。新しい学習指導要領が全面実施になり、次の改訂までの十年間は、教育関係者だけでなく、子ども、保護者、地域・社会、みんなが「図画工作や美術、造形表現って、こういうために、絶対すべての子どもに必要だ」と思えるようにしていくことが求められる非常に重要な期間になると思います。

また、令和元年６月に教育課程全体を議論する中央教育審議会の教育課程部会では、「Society5.0時代を見据えた芸術教育の在り方」が議題の一つとして設けられました。このような場で、「芸術教育」に関する議論が行われたのはほとんど初めてです。やはり芸術教育に求められていることがあるのだと思います。問題は「芸術教育に求められていることは何か、そして普段の授業が求められていることに応えられるだけのものになっているかどうか」ということです。そこで配布された資料の一つに「人格の完成を目指す豊かな感性や創造性の涵養」があります。芸術の本質は「子どもたち一人ひとりの人格の完成を目指す」であり、芸術だからこそできる「豊かな感性や創造性を育てていく」ことに尽きるかと思います。また、他にも、これまでの議論の中では、「豊かな感性や想像力等をはぐくむことはあらゆる創造の源泉となるものであり、芸術等教科等における学習や、美術館・音楽会等を活用した芸術活動の充実を求められる」（H28.12.28答申）ということや、「新時代に対応した高等学校教育の在り方」の中に示された、「ＳＴＥＡＭ教育」について入っていることなども、芸術教育に対する期待の表れではないでしょうか。「Society5.0に向けた人材育成」の報告書の中でも、「実体験を通じて醸成される豊かな感性や多くのアイデアを生み出す思考の流暢性、感性や知性に基づく独創性と対話を通じてさらに世界を広げる想像力、苦心してモノを作り上げる力が、このSociety5.0の社会では絶対に必要だろう」とあります。まさに図画工作や美術、造形表現そのものだと思います。

【新学習指導要領のポイント】

今回の改訂された新学習指導要領は、「表現と鑑賞の活動を通して育成すべき資質・能力と学習内容との関係を明確にする」とともに、「芸術系教科の見方・考え方を働かせて、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力の育成を目指す」ことを一層重視していることです。これを三つの柱の資質・能力で整理をし、「豊かな感性」「新しい意味や価値をつくりだす創造性を育む学び」を展開していきます。これらの資質・能力の育成は、子どもたちの人格の完成やこれからの社会の中で生きていく上でも必要な学びと考えています。

中学校美術科では、表現においては、特に「主題を生み出すこと」を重視しています。主題の定義は、「生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描くことであり、発想や構想の学習を進める上で基盤となるもの」です。ここでは、先生が主題を決めるのではなくて、「子どもたち自身が自分の表したいことが見つけられるような題材になっているかどうか」が大切です。図画工作や美術、造形表現は、単に活動で終始するだけではなく、子どもの個性やよさが学習の中で生かされ、「学び」がなくてはなりま

せん。子どもたちは、表現や鑑賞の活動を通して、様々な課題を乗り超えながら自分で答えを創り出しています。子どもたちの通る道筋はいろいろで、課題の数も違うのかもしれません。表現でも鑑賞でも、題材が終わった時に「子どもたち一人一人が答えを創り出すことができた」という「学び」があるかどうかが非常に重要です。また、教師は「どういう道筋を通ってこの子どもは答えを出したのだろうか」というプロセスをしっかり見ることも大切です。

【主体的な学び】

答申で示された３つの改善の一つに、「学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる主体的な学びが実現できるかどうか」があります。ここで大事なのは「自己のキャリア形成の方向性と関連付ける」ことです。つまり、子どもにとって日々の授業や題材が、「自分事になっているか」ということです。まずは、題材が子どもの「自分事」にならないと、「主体的な活動」になることはなかなか難しいのではないでしょうか。先に述べたように「すべての子どもたちに人格の形成や完成を目指す」教科であり、学習活動なのですから、しっかりと考えていこうということが、今回の柱書きの「生活や社会の中の～」という言葉に込められています。美術や美術文化への関わり方は様々あります。美術の好きな子、得意な子だけを対象にする授業ではなく、すべての子どもたちに、生きる上で必要な教育を行うこと、それは、子どもにとって「自分事」になった時に「主体的な学び」の実現につながることになるかと思います。そして、これらが「主体的な学び」の「鍵」となります。

【対話的な学び】

今回、「子ども同士の協働」「教職員や地域の人との対話」「先哲の考えを手掛かりに考えること」を通じて「自己の考えを広げ深める」という、「対話的な学びの実現ができているか」という視点も求められています。「思考力、判断力、表現力等」にあたる「発想や構想」の場面や、「鑑賞」において見方・感じ方を深める際に、「言語活動」を適切に位置付けながら子どもたちを育てていくことも大切です。美術の学習活動において、「言語活動」には二つの意味があります。一つは「自分の考えを整理するという場面」です。もう一つは「他から考えなどを聞くことによって、自分では気付かなかったことを、自分の考えられなかったことを、もっと感じられるようになる」ということです。他者と対話をするとき、「人の見方や感じ方から、自分の見方や感じ方を広げたり深めたりするということは、少なくとも自分の見方や感じ方がある程度あって初めて成立するもの」です。こういったことから、他者との対話を大切にするとともに、自己との対話も重視しながら豊かに対話的な学びを実現することが求められます。

【深い学び】

「深い学び」のカギとなるのが「造形的な見方・考え方」です。その中に「教科の特質」が例示されているからです。これが働いていない授業は、「本質に迫っていない」ということが考えられます。ここでは、「美術の本質」ではなく「美術科の本質」であることを意識することも大切です。そして、子どもに分かりやすく教科の本質と関連する「学習のめあて」として示しながら共有し、本質的な学習活動に主体的に関わらせていくということが、「深い学び」につながると考えられます。また、「造形的な見方・考え方が働きながら鍛えられ、さらに相乗効果で学びが深まっていく」とも考えられます。この「見方・考え方」に示されている「造形的な視点」も大切です。小学校では「形や色などの視点」、中学校は「形や色彩などの働きの視点」と「イメージで捉える視点」です。これは、解説書では「木を見る視点」と「森を見る視点」としており、これを両方育てていこうと説明しています。このような視点がないと、自分の周りに価値や美しさがあっても、気付かずに通り過ぎてしまいます。

【子どもたちは豊かな存在答えは先生の中に】

図画工作や美術、造形表現は、「全ての子どもたちは豊かな存在である」を前提とした教育だと思います。何か空っぽの入れ物の中に物を入れるような教育ではなく、子どもたちがもともと持っている豊かさを広げたり、深めたり、育てたりしていくことがこの教育だと思います。そして、「子どもたちは常に学ぶ存在」です。だから「学ぶ」ことをみんなで後押しすることが大事です。「自分の世界を創り出す楽しさや喜びが味わうことができる」学びを実現させるとともに、「子どもの力で学べるな」と思

える場面では「言葉かけを我慢して待つ」という気持ちで子どもたちに接してください。

子どもたちへの指導方法などの答えは、きっと私の中にあるのではなく、子どもと相対する先生の中にあるのです。子どもたちを一番よく知っている先生方の中に、子どもたちをどう教えていったらよいのかという答えがあるということです。新学習指導要領全面実施の中で、子どもたち一人ひとりが「豊かな創造活動の実現し」、何よりも「人格の完成や、これからの社会に生きる生き方、在り方」につながる造形表現、図画工作、美術の授業展開にしてほしいと思います。

公開保育・授業と実践研究協議　日程：１１月22日（金）

※ 紙幅の都合上、実践や発表などで、内容の省略や割愛また抜粋をさせていただいた箇所もあります。

◆公開保育（会場：幼稚園・保育園）

テーマ　「おもしろそう！　やってみたい！　たのしいね！」

<テーマについて>

幼児期の豊かな感性は、日々の生活の中で身近な環境とかかわりながら、様々な場面で美しいものや不思議なもの、感動するものなど、心を動かす出来事に触れてイメージを豊かにし、感じたことを友達や保育者と共有したり自分なりの方法で表現したりすることによって育まれていきます。

保育者は、幼児が心を動かされるような体験ができる環境や魅力ある素材、用具を整え、幼児が自分なりに試したり工夫したりして様々な表現を楽しむことができるように、また、自分なりに感じたことや考えたこと、表現したことを周りと共有できるように支えていくことが大切です。

生活の様々な場面で、「わあ、すごい」「きれいだな」「なんだろう？」「ふしぎだな」「どうしてかな」「おもしろそう！」と心がワクワクするような事に出会い、「おなじことがしてみたい」「おなじものがほしい」「こんなふうにしてみたらどうなるかな？」「ためしてみたいな」「やってみたい！」と自ら動き出し、「みてみて、こんなふうになったよ」「いっしょにやろうよ」「たのしいね」と友達や保育者と共に感動したり、充実感を味わったりする体験を積み重ねたりすることが、完成と表現する力を養い創造性を豊かにしていくと考え、テーマを設定しました。

名古屋市立大幸幼稚園	公開保育 9:30～10:45　保育研究協議11:00 ～11:30	
公開保育	保育者	指導助言者
自然物など様々な素材を使って、友達と一緒に、遊びに必要なものをつくったり使ったりします。	沓名　幸（３歳）　奥野　美都（４歳） 諏訪　愛奈（４歳）　大澤　玲子（５歳） 澤井　洋子（５歳）　市橋　嘉代子 﨑田　志穂	塚本　敏浩 （名古屋経済大学教授）

【保育の様子】

＜公開保育の様子＞

自然物など様々な素材を使って、友達と一緒に遊びに必要なものをつくったり使ったりした。

3歳児は少しずつ自分のイメージしたものを形に表現することができた。

４歳児は「ドリンクバー」という言葉を教師が取り入れたことで、繰り返し遊びに使えるものをつくり、遊びをどんどん広げていくことができた。

５歳児になると、しくみ・しかけ、本物みたいにしたいという思いが表れ、教師が使いやすい材料、扱いやすい材料を考えて提供したため、それぞれの園児の思いを集めたすてきな遊びにつながった。

＜公開保育の振り返り＞

- 身の回りにある自然現象や出来事に触れ、「おもしろそう」「やってみたい」と心を動かし、感じたことや考えたことを教師や子どもと一緒に表現することで、「たのしいね」と感じてほしいと願いをこめてきた。
- 子どもの「心の動き」に着目して、興味・関心があることを捉え、その興味・関心に合った素材・材料など、環境構成を工夫してきた。
- 子どもたちのいろいろな感性を大事に、教師自身も子どもの動きを見て、豊かな感性をもって保育をしてきた。

＜指導・助言＞

◆指導助言者 ： 名古屋経済大学教授　　塚本敏浩先生

- 大幸幼稚園として、今回の大会を迎えるにあたり、昨年までは"造形"という考えからどのような作品を飾らなければいけないかと悩んでいた。しかし、「おもしろそう」と思い、心を動かし、体を動かしたくなるような魅力的な環境構成が大切であることに気づくことができた。また、保育者とかかわり「たのしい」「友だちと一緒」という気持ちをもつということも、幼児期の造形では大切であることが分かった。
- また、幼児期の造形は、自分なりのルール、経験、体験、その時の思いや気持ちから始まる。心動かす経験から広がっていく造形活動のつながりを大切にしていきたい。
- 見栄えに目がいきやすいが、遊んでいく過程が大事である。

学校法人暁学園 名古屋あかつき幼稚園	公開保育 10：15～11:00	
公開保育	保育者	指導助言者
自然に触れ、みんなで話し合い、大きな紙に絵を描きます。（共同画）	波左間　華奈（３歳）　松原　葵（４歳） 北原　有季子（５歳）	槇　英子 （淑徳大学教授）

【保育の様子】

＜公開保育の様子＞

自然に触れ、素材や材料を好きに選び、みんなで話し合い、自分のありのままに表現することを大切に、造形活動に取り組んだ。全身絵の具だらけになって、遊ぶ「"ぬりたくり"フィンガーペイント」や素材や材料を好きに選び、切って貼って遊ぶ活動を行った。

名古屋市大池保育園	公開保育 9:30～10:45　保育研究協議11:00 ～11:30	
公開保育	保育者	指導助言者
『おもしろいがいっぱい！』 身近な素材の楽しさを、子どもと一緒にみつける活動を行います。	中村　杏奈（３歳）　横井　直子（４歳） 浅井　香璃（５歳）	田中　義和（名古屋短期大学特任教授） 江村　和彦（日本福祉大学子ども発達学部准教授）

【保育の様子】

＜公開保育の様子＞

3歳児は、可塑性があり、子どもの思いに答えてくれる土粘土を選んだ。好きな硬さの土粘土で自由に表現し、主体的に遊びを楽しんでいた。

4歳児では好奇心や自信をもって絵の具に関われるようにした。透明シートを使っての活動では、意外な展開やその経験から遊びを広げたり、違う遊びへとつなげたりする姿が見られた。

5歳児では遊びが広がる廃材遊びのコーナーを部屋に作った。廃材遊びを楽しむ中で、他のクラスにも遊びにきてほしいという子どもの思いからお店屋さんごっこをすることにつながった。

＜公開保育の振り返り＞

- 3歳児は、好奇心が旺盛で、興味関心の対象をいろいろもっている。繰り返し遊びを楽しむことを通し、友達と一緒に形を作って遊んだり、自分で考えて工夫したりする姿があった。
- 4歳児は、絵の具を顔や足、顔にも大胆に塗った経験から、いろいろな塗り方や遊び方、予想もつかなかった大胆な遊びを味わい、その中で満足感、達成感を感じることができた。大胆に遊んできたからこそ、自分なりの発想や表現をのびやかに楽しむことができた。
- 5歳児では、共通のイメージをもっている子ども同士が遊ぶ中で、一人一人が自分の思いを表現していた。子ども同士で協働的な学びを大切にしながら関わることができた。

＜指導・助言＞

◆指導助言者 ： 名古屋短期大学特任教授　　田中義和先生

- 可塑性のある素材は、子どもの能動性、主体性を引き出しやすい活動になる。
- 新しい力を獲得することを急ぐのではなく、すでにもっている力をいろいろな場面で発揮し、そこからの発達を十分大切にする。

◆指導助言者 ： 日本福祉大学こども発達学部准教授　　江村和彦先生

- 造形は、結果ではなく過程が大切である。

- 今までの繰り返しの活動の中で様々な力をつかんでいる。
- 育てたいのは、造形の力ではなく、造形を通して得る気づきや育つ力である。
- お話や物語が造形活動を広げる原動力になる。

社会福祉法人多加良浦学園 御田クローバー保育園	公開保育 9:20～10:20　保育研究協議10:25 ～11:30	
公開保育	保育者	指導助言者
自然物や廃材など、身近な素材を使った造形遊びを行います。	大平　花帆（0歳）　河口　浩子（0歳） 櫻井　　操（1歳）　船張　朋世（1歳） 村瀬　淳子（1歳）　角　奈津美（2歳） 梅村　貴子（2歳）　纐纈　ゆみ（2歳） 堀江　有紀（3歳）　加藤　　薫（3歳） 遠藤　咲希（4歳）　七野　粧子（5歳）	樋口　一成 （愛知教育大学幼児教育講座教授）

【保育の様子】

＜公開保育の様子＞

2歳児では、片栗粉を水に溶かし、とろみをつけ、その質感を感じる活動をした。

3歳児はシュレッダーで細かくした紙を袋に詰めたり握ったりして、遊びに夢中になり、汗をかいていた。

4歳児は緊張しやすい子が多く、はじめは数人が固まっていたが、活動が始まると積極的に新聞紙を使い、友達と一緒に家をつくったり、クラゲをつくったりしていた。中には新聞紙でつくった棒を、天井に届くように熱心につなげる姿がみられた。

＜公開保育の振り返り＞

- 0～3歳児は、今日の公開保育に至るまでのところで、同じ素材をつかって活動をしていたため、子ども一人一人が遊びに夢中になり、遊ぶ内容が広がった。
- 4・5歳児についても、同じ素材を使って活動したことで、遊びのさらなる発展につながり、友達同士で協力して活動している姿が多くみられた。また時間を忘れて活動に没頭する姿が多くみられた。

＜指導・助言＞

◆指導助言者 ： 愛知教育大学幼児教育講座教授　　樋口一成先生

愛知大会のテーマをもとに、以下の４つの視点を重視した保育を追求した。

- 素材に関わることで得られる直感を大事にし、諸感覚を十分に働かせる保育

・　美しいものに憧れ、理想を希求する気持ちを高める保育
・　自分にとって新しいものを創り上げる創造性を育む保育
・　他者の考えを受け入れる寛容さを養う保育

また、早い段階から大会当日の保育の内容を決めて、それに向かっていく保育をするのではなく、大会が近くなってきてから、子どもたちの様子やそれまでの経験を踏まえて、大会当日の保育の内容を決めた。

また、指導案についても、今までは「本時の流れ」を中心に「環境構成図」「準備物」等であったが、「これまでの表現（造形活動）」「これまでの活動と本時の活動」、「これまでの子どもたち・クラスの様子と本時の活動」を加えた。これらの取り組みにより、保育の質の向上を目指した。今日の活動や指導案、以前の活動の動画から、子どもたちの笑顔、先生方が楽しむ様子が見られたことが、今回の研究の成果を物語っている。

◆実践研究協議会（会場：名古屋市博物館）

研究協議　13:30～16:00

発表テーマ	発表者	指導助言者
心を動かし楽しく表現する幼児の育成 ～「豊かな感性と表現」の姿をとらえながら～	廣田　邦子 （名古屋市立第一幼稚園）	槇　英子 （淑徳大学教授） 塚本　敏浩 （名古屋経済大学教授）
豊かな感性や表現する力を育む造形活動 ～表出から表現へ　コミュニケーションとしての造形活動～	橋本　美紀 （名古屋市実践研究第３研究グループ）	

【協議内容】

２名の発表者の発表後、質疑応答がなされ、指導者より指導助言があった。

発表者への質問には、「平面の絵を描くという活動をするにあたり、この研究をしてきたことによって意識として何か変化したことはあるか。」などがあり、発表者は、「子どもたちが心から楽しかったと思ったことが描きたい気持ちになって表れてきたと思う。自分から絵を描くということに手が進まなかった子どももいたが、こんなことをして楽しかったうれしかったという思いが（自分の中に）しっかりあると、自然と『これが描きたい伝えたい』という気持ちになってきたと感じている。」

また、「一斉に何かをやらなくてはいけないという保育はあったと個人的に思っていて、描くときには皆描かなくてはという思いが自分の中にはあった。この研究を通して他の保育者とも関わり、皆が同じ作品をつくる必要はないと思うようになった。絵で表現することが苦手なのか、皆の前で描くのが恥ずかしいのか、その子どもの思いを自分は探ろうとするようになった。そのようなことを保護者とコミュニケーションをとりながら取り組む保育に変わってきたと思う。」と、応答していた。

指導者からは、「今後の課題の中で３、４歳児の活動にも焦点を当てたいとある。３、４歳の時期から幼児の発達する方向を意識して積み重ねていくことが大切だと発表を聞いてよりそう思った。」、「保育者の子ども理解（受け止め）によって次の活動でどのような成長が見られたか

その変容が見られると、興味深いものになったと思う。実践３の幼児が４歳児、５歳児になったときにどのような表現をすることに喜びを味わう子どもになっているかについてとても興味がある。子どもの発達は一人一人の特性に応じて育っていくものなので必ず一律に成長するとは限らないが、研究として実証されると意義があるかと思う。」という助言や、「保育の場での造形表現とは、表出（欲求を満たすために行ったこと）が人に理解されたり伝わったりする、それによってイメージを共有する楽しさを知る、それが同世代の友達同士の中でなされることは社会の中で生きていくための肯定的な感情を得ていく。表現が大切だという中に、一人一人大切だということを伝える絶好の機会となる。どんな表現であってもそれを保育者が認めてくれる、大事にされたという関係が造形表現に関わる人同士で行われる。造形表現には豊富な可能性があり、新しい価値や面白さを知る機会になる。それはまさに創造の世界で、その面白さは実は学びであり、興味関心と実につながっている。子どもが育っているだけでなく、保育者自身も創造性を掻き立てたり育まれたりしている。保育者の主体性を尊重することも大切だと思う。保育者も面白さや楽しさに真剣に向き合って一緒に共有する姿勢も大切である。」などという指導助言をいただいた。

◆公開授業（会場：小学校・中学校）

なごや小学校　会場

○ 公開授業Ⅰ 9:45～10:30　　公開授業Ⅱ 10:50～11:35

○ 授業実践協議 13:00～14:15

※○視点 ：大会テーマに設定された四つの視点のどれにあたるかを示している。

年組 授業会場	題材名 ●領域 ○視点	公開授業Ⅰ・Ⅱ 授業者	授業研究協議 司会者	授業研究協議 指導助言者	協議会場
1年2組 1年2組教室	いこう！みんなのなごやっ子どうぶつえん ●絵 ○視点1	Ⅰ 柿崎 丈史	中野 慎吾 （一宮市宮西小）	大橋 功 （岡山大学大学院教授）	体育館
2年3組 体育館	ハンガライダー ●工作 ○視点3	Ⅱ 樋田 裕二			
3年1組 体育館	ペーパーワールド ●立体 ○視点3	Ⅰ 北薗 征賢	福井 千絵 （名古屋市砂田橋小）	中下 美華 （京都市西京極西小校長）	体育館
4年2組 学習室	ねじねじぐりぐり つながった ●造形遊び ○視点1	Ⅱ 飯田理紗子			
5年1組 CR2	広がる墨の世界 ●立体 ○視点2	Ⅰ 辻 真弘	辻本 哲也 （名古屋市桃山小）	中村 僚志 （刈谷市刈谷南中校長）	CR1
6年1組 多目的室	チェンジ ザ スペース ●絵【映像】 ○視点4	Ⅱ 長谷川献祐			

○ 実践研究協議　14:25～15:20

実践研究主題	提案者	協議会場
対話活動を通して思いを表現する写生大会	石原 知加 （一宮市今伊勢小）	体育館
「色・形・作者の思い」からイメージを広げ、自分の思いを豊かに表現することができる児童の育成 ～鑑賞活動と表現活動の一体化を図った実践を通して～	大野 裕 （稲沢市稲沢西中）	
思いを実現させ達成感を味わわせる造形活動 ～思考の見える化を通して～	鈴木 さやか （名古屋市名北小）	体育館
つくりだす喜びを味わわせるための授業づくり ～材料や場所を基にした造形遊びの活動を通して～	眼目 英伸 （千葉市花見川小）	
一人一人のよさを認め合い、表現の喜びを味わう子の育成 ～表現と鑑賞を関連させたICTの活用を通して～	齋藤 みゆき （安城市今池小）	CR1
発想や構想の能力を高める学習指導の在り方	塩川 香織 （千葉市都賀の台小）	

○ 全体会・講評　15:30～16:00

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
文化庁参事官（芸術文化担当）付教科調査官
岡 田 京 子　先生　　会場：体育館

公開授業・実践研究協議・全体講話

1　公開授業の様子

≪１年生　「いこう！みんなの　なごやっ子どうぶつえん」≫

自由に裂いたりちぎったりした画用紙を使って、「動物」をイメージし製作を行った。児童は動物園の飼育員になった気持ちで、どんな動物がいるのか考えさせた。児童は、画用紙の好きな色を選び、並べ方を考えながら、自分の表したい動物を見付けていた。鑑賞の場面では、教室の壁三面に掲示された作品について感じ取ったり考えたりした。

【１年　製作の様子】

≪２年生　「ハンガライダー」≫

楽しいハンガライダーをつくることを意識させながら、作品の滑り方や飾り方のよさに気付きながら製作に取り組んだ。児童は、自分の作品を滑らせ、イメージを広げていた。また、友達の作品児童は、自分の思い付いた飾りに合った材料を探すために、「材料コーナー」に行き、じっくりと材料を選ぶ姿が見られた。

【２年　鑑賞の様子】

≪３年生　「ペーパーワールド」≫

前時までに製作した、画用紙を折ったり、丸めたりしてホチキスで接合したパーツ「ペーパーツ」。どんな工夫があるのか、「ペーパーツ博物館」で鑑賞した。形の面白さに気付き、前時までにつくった袋いっぱいのペーパーツを友達に見せながら、どんどんつないでいった。楽しみながら、自分にとって面白い形を製作していた。

【３年　製作の様子】

≪４年生　「ねじねじ　ぐりぐり　つながった」≫

「使いたいねじや木切れを選び、ねじを取り付け、どんなことができるかつなげながら考えよう。」と児童に投げ掛けた。児童は、山積みになった木切れと洋折、洋灯呂、ヒートンなどを組み合わせ、さらにできた複数の形をつなげたり、天井のつるされた網に引っ掛けたりして想像を膨らませながら取り組んだ。児童は、夢中になり新しい形をつくっていた。

【４年 製作の様子】

≪５年生　「広がる墨の世界」≫

墨の効果を生かした紙を使って、墨で描いた表現のよさや効果を生かして立体にしていた。立体に表した作品を、友達同士で鑑賞し合い、どのような気持ちを表したのか伝え合った。児童は自分にはない表し方を見付けて自分の作品に生かそうとする姿も見られた。平面とは違う表現の面白さを味わっていた。

【５年 鑑賞の様子】

≪６年生 「チェンジ　ザ　スペース」≫

「友達と対話しながら、どこに映すと自分イメージに合っているか考えてつくり、つくりかえよう」と児童に投げ掛けた。児童はタブレットでビジュアルプログラミング言語を活用して、図書室や廊下、階段など、自分が変化させたいと思う空間へ移動して、プロジェクターで映し出して確かめ、自分のイメージに近付くようにつくり変えていた。

【６年 授業の様子】

2　授業実践協議の様子

授業実践協議では、質問やグループ協議で様々質問や意見が　交わされた。４年生の「ねじねじ　ぐりぐり　つながった」の　協議では、ねじを使うという題材　開発のよさや場の設定につ　いて意見が交わされた。場の設定では、はじめから吊すという　ことを知っていてつくる方が活動が広がったのではないか。」　という意見や「吊す場の下に活動の場をつくった方が良かった　のではないか」と場の設定の大切さについて協議された。

【グループ協議の様子】

【指導助言の先生から】

≪低学年　岡山大学大学院教授　大橋功　先生≫

【低学年の助言の様子】

実践を通して感じたこと、他の先生方とのグループ討議、発表すべてが整理されていた。１年生の授業は題材を動物園と設定したことで児童が集中できた。自由に活動してきた流れで、自由なイメージや多様性があってもよかったのではないか。準備や計画がしっかりとなされていた。

≪中学年　京都市西京城西小校長　中下美華　先生≫

授業を見た先生方が成果と課題について考えたことがすばらしい。授業づくりが４つの視点をもって考えられたところが良い。見方、考え方をもって子ども達が活動していた。４年生は、場を変えるという練習と材料を後で出すことはしないで、全て見通しをもたせて取り組ませ、子どもに活動をゆだねると良い。資質、能力の視点で考えていくと良いのでは。

≪高学年　刈谷市刈谷南中校長　中村僚志　先生≫

鑑賞のタイミングは、①製作が停滞したとき、②完成前にもう一度本人に問うとき。今回のタイミングは良かった。「すごいと思ったことを教えて。」ではなく、「誰のが参考になった？」と言うことで目的が達成される。最新の内容の授業であった。子どもが夢中になる。イメージは変わって当然である。ゴールを決める必要があれば、映像に意味付けができたとき。見せる場所や人を限定することで、新たな発見もある。

３　実践研究協議の様子

【実践研究協議の様子】

≪中学年≫

思いを実現させ達成感を味わわせる造形活動。

自分の思いを伝えられることができるようになった。また、友達の思いも受け止められるようになった。このことが満足度につながると捉えている。

試しの活動をたくさん取り入れた。失敗しても大丈夫という思いをもたせることから自由に取り組ませた。

≪高学年≫

意欲を高めさせる題材の出会わせ方は、イメージ崩しから行った。「どんな公園が楽しいか。」聞いたり、世界の変な公園を紹介したりした。光については、教室に映る形などに着目させた。動き回る子や変化する状況の中、どのように評価をしたのかは、内容によって補助を頼んだ。

４　全体講話

≪文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官　岡田京子先生≫

【岡田京子先生による講話】

感性を働かせる場を設定することが大切である。そのためには、自分が感性を働かせる場に身を置く必要がある。きれいな花を見る。おいしいものを食べる。外を見てみようかな。このようなことを自ら行う。今回のテーマ「共に生きる」について。人とは違う。しかし共感はする。基本は違うということである。「違う」というところに立つと共に生きられるようになる。「同じ」に立つと違いを排除しようとする。

教科の目標（造形的な見方・考え方）で「自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだす」ことが示されている。自分にとっての意味や価値、つまり、先生の都合ではなく、その子にとっての意味や価値が大事である。

穂波小学校　会場

○ 公開授業Ⅰ 9:50～10:35　　公開授業Ⅱ 10:50～11:35

○ 授業実践協議　13:00～14:15

※○視点 ：大会テーマに設定された四つの視点のどれにあたるかを示している。

年組 授業会場	題材名 ●領域 ○視点	公開授業Ⅰ・Ⅱ 授業者	授業研究協議 司会者	授業研究協議 指導助言者	協議会場
1年 学習室	あそぼう！なかよしモンスター ～えがおいっぱい ぼうけんランドで～ ●絵　○視点1	Ⅰ 米山前子、桑原美琴	安田　拓之 （名古屋市赤星小）	杉林　英彦 （愛知教育大学准教授）	4年2組 教室
2年 体育館	みぢからはじまるおはなし ～ゆめいっぱいのほるみの間～ ●立体　○視点3	Ⅱ 三谷　幹、木俣俊介			
3年2組 特活室	ようこそ！かげの世界へ ～思いがかがやく光と色の読み聞かせ～ ●立体　○視点3	Ⅰ 坂野　直人	河口　貴子 （名古屋市西前田小）	三澤　一実 （武蔵野美術大学教授）	特活室
4年2組 図工室	ハッピーメキャッチャー ～「瑞穂」に笑顔があふれますように～ ●立体　○視点3	Ⅱ 伊藤　有紀			
5年2組 第2図工室	光るぞ！メタルOOI ～私だけのトヨトミアート～ ●立体　○視点2	Ⅰ 大島　聖矢	鈴木早紀恵 （豊田市元城小）	是枝　享子 （愛知県総合教育センター研究指導主事）	6年2組 教室
6年2組 6年2組 教室	穂波デコレーションプロジェクト2019 ～思い出を残そう～ ●鑑賞　○視点4	Ⅱ 岡田　朋子			

○実践研究協議　14:25～15:20

実践研究主題	提案者	協議会場
材料から発想を広げ、主体的に創造する児童の育成～液体粘土を使った造形活動を通して～	黒野　駿 （豊明市豊明小）	4年2組 教室
感性を豊かにし、基礎的な能力を育てる造形活動 ～自由な発想で楽しく製作できる絵画製作を通して～	山口　美奈 （犬山市城東小）	
自分の思いを実現できる造形活動	佐々木めぐみ （名古屋市白鳥小）	特活室
直感から分析的な鑑賞へ ～わくわく透明クリエイティブシート	檜山　雄大 （名古屋市穂波小）	
発想や表現を広げ、造形活動を楽しむ子を育てる ～「ビッグ！カラフルかげえものがたり」の実践～	宇野　理恵 （豊田市上鷹見小）	6年2組 教室
感じる力や思考する力を伸ばす造形活動 ～Fantastic Eggs“たまごのデザイン”～	磯村　祐樹 （知立市知立小）	

◆全体会・講評 15:30～16:00

日本体育大学教授
奥　村　高　明　　先生　　会場：体育館

公開授業・実践研究協議・全体講話

1　公開授業の様子

≪１年生　「あそぼう！なかよしモンスター」≫

跳び箱やついたてなどを組み合わせた「ぼうけんランド」に「宝物」が隠せるように飾り付ける活動を行った。色々な材質の紙に慣れさせることを大切にした。くしゃくしゃにしたり山や川等に見立てたりして楽しく製作していた。交流がある保育園と遊ぶことをモチベーションにした。

≪２年生　「みちからはじまるおはなし」≫

学区探検を通して町への愛情を深め、みちを広げた大きな「ほなみの町」の地図に、町にあるといいものを想像した。「ゆめいっぱい」になるように、材料を組み合わせて、生き生きと製作することができた。授業の始めと終わりに、地図に置いた作品を舞台の上から見下ろして鑑賞することで、町の変化を実感できた。学区探検で世話になった　老人会の方との交流も、製作意欲を高めた。

≪３年生　「ようこそ！かげの世界へ」≫

読み聞かせボランティアとの交流から表現への意識を高め、当日の導入も担任と共同で行い、雰囲気づくりに一役買った。プラ段ボールと光源装置を活用して、形と色のシルエットで物語の場面を影絵として表現した。グループ活動の中で積極的に対話が生まれ、分担する場面のイメージを共有し、効果的な表現について追究することができた。

≪４年生　「ハッピー♪キャッチャー」≫

老人保健施設との交流から、高齢者の方を笑顔にしたいという思いを製作の動機付けにした。施設の方の笑顔を創造しながら、木材と毛糸を主材料にして「幸せをキャッチする」オブジェを発想豊かに製作することができた。対話を通して笑顔にするための材料や表現の意図「スマイルイメージ」をワークシートを活用して明確にさせた。

≪５年生　「光るぞ！メタル〇〇！」≫

学区の暖房・空調機メーカーからもらった金属廃材を主材料にして、きらきら光るオブジェを製作した。前時の鑑賞活動の振り返りから表したいオブジェのイメージをグループで話し合い、製作に臨んだ。途中作品に光源のLEDライトを入れ、「真っ暗ボックス」の中に入れて光り具合を確かめながら、表現を追求することができた。

≪６年生　「穂波デコレーションプロジェクト２０１９」≫

地域のプリンターやミシンなどの機械メーカーの「カッティングマシーン」によって生まれる形を廊下の窓に貼り、心が和む飾りをグループでデザインした。６年間の思い出を基にして決めたテーマとデザインの視点とを結び付けながら、後輩たちの今後の充実した学校生活を願い、製作した。グループ内で対話することで、それぞれのこだわりや捉え方の違いをすり合わせ、まとめていくことができた。

【１年「あそぼう！なかよしモンスター」】

【２年「みちから はじまる おはなし」】

【３年「ようこそ！ かげの世界へ」】

【４年「ﾊｯﾋﾟｰ♪ｷｬｯﾁｬｰ」】

【５年「ﾋｶﾙぞ！ﾒﾀﾙ〇〇」】

【６年「穂波デコレーションプロジェクト2019」】

2　授業実践協議の様子

《1年生へ》様々な紙が用意され、児童のわくわく感が高まる場の設定がよかった。
《2年生へ》大きな地図上で生き生きと活動していた。「道」の材料は?(選挙用シート)
《3年生へ》材料は誰が用意したのか？（ブラ段ボール等は学校、ブラの材料は児童）
《4年生へ》ホスピタルアートの捉えは？(高齢者の方を喜ばせる点が類似している。)
材料との関連は？(ドリームキャッチャー。毛糸・木材が癒やしの材料)
《5年生へ》素材が多く発想力に。ワークシートで深い学び。見てもらえるのがよい。
《6年生へ》新しい道具として面白い。わくわくする素材の数。窓が魅力的になる。

【指導助言の先生から】

《低》杉林英彦 准教授
（愛知教育大学）

《1年生》様々な紙の事前準備がやる気を引き出し、試しながら主体的に活動する姿に。「ぼうけん」のイメージを広げる一層の支援を。
《2年生》材料と環境に工夫。「道」が広がる中で「夢」も広がるイメージ。今回個別の活動が主だったが、「道」と同時並行でも面白い。

《中》三澤一実 教授
（武蔵野美術大学）

《3年生》カリキュラムマネジメント。国語の物語から、「どうしたら想像した場面がつくれるか実験」と投げ掛ければ一層の主体性へ。
《4年生》地域との取り組み。「喜んでもらうためにはどうしたらよい？」という導入と、4年生の「自分が～したい」という思いを大切に。

《高》是枝享子 研究指導主事
（愛知県総合教育センター）

《5年生》思いを大切にして、地域性を活用。選択できる環境づくりがよい。振り返りのあり方が課題。
《6年生》心が躍る活動環境。思いがあれば、マシーンの活用もOK。深い実感と理解があればデザインの視点も有効。個の発想を活動につなげる一層の留意。

3　実践研究協議の様子

「直感から分析的な鑑賞へ
～わくわく透明クリエイティブシート～」
（名古屋市立穂波小学校　檜山雄大）

絵画作品に透明シートを重ね、囲んだり書き込んだりする鑑賞を実施し、表現の追求につなげた。鑑賞に様々なパターンがあり、可能性の広がりが話し合われた。

「感じ取る力や思考する力を伸ばす造形活動
～Fantastic Eggs "たまごのデザイン～」
（知立市立知立小学校　磯村祐樹）

模様にこだわらせるため、あえて卵のデザインをさせ、卵の「向こう側」を想像させた。保護者を巻き込んだ活動。根拠を示すことの大切さが話し合われた。

4　全体講話

≪日本体育大学　奥村高明先生≫

美術に対する社会の期待の高まりと美術の重要性とともに、学ぶ姿と「どんな能力を発揮しているか」をしっかりと観察すること等教師に求められること、道具と人の感覚や思考との関連性などについての話があった。具体的で豊富な写真資料を基に語られ、名古屋市造形作品展に行って出会ったおばあさんとのエピソードを交えながら語られ、楽しく学びの深い時間となった。

豊岡小学校　会場

※○視点　：大会テーマに設定された四つの視点のどれにあたるかを示している。

○ 公開授業Ⅰ 9:40～10:25　　公開授業Ⅱ 10:45～11:30

○ 授業実践協議 13:00～14:15

年組 授業会場	題材名 ●領域　○視点	公開授業Ⅰ・Ⅱ 授業者	授業研究協議 司会者	授業研究協議 指導助言者	協議会場
1年3組 特活室	マジック！ シュシュシュ！！ ●絵　○視点1	Ⅰ 大島　千紘	伊藤　充 （名古屋市立藤が丘小）	塚本　雅子 （名古屋市教育センター指導主事）	1年3組 教室
2年3組 2年3組 教室	ならべてつないで キラピカワールド ●造形遊び　○視点2	Ⅱ 柴田　智広			
4年1組 理科室	森から生まれた世界 ～ようせいの遊び場～ ●立体　○視点4	Ⅰ 山下　紘	山口　朋子 （愛西市佐織西中）	佐藤　雅浩 （東海市船島小教頭）	4年1組 教室
3年2組 3年2組 教室	発見！ふしぎな生き物 ●立体　○視点1	Ⅱ 大須賀　章人			
5年2組 多目的室	シャドーモンスター ●造形遊び　○視点2	Ⅰ 曽山　千晶	石橋　一美 （豊橋市東部中）	磯部　錦司 （椙山女学園大学教授）	5年2組 教室
6年1組 図工室	これがお墨付き ●絵　○視点3	Ⅱ 沢代　宜往			

○ 実践研究協議　14:25～15:20

実践研究主題	提案者	協議会場
図画工作科における幼小接続の視点を意識した授業実践	中野　和幸 （佐賀大学教育学部附属小）	1年3組 教室
思春期における観察描画	中村　儒纏 （東京藝術大）	
おもいが「ひろがる」「つながる」造形活動 ～スクールミュージアムの取組を通して～	近田　芳明 （あま市七宝中）	4年1組 教室
子どもが自分の表現を追求する造形活動	原　敏史 （名古屋市東丘小）	
素材に親しみ創る喜びを味わう子どもの育成	高沢美砂子 （幸田町豊坂小）	5年2組 教室
素材に向き合い、自分の思いを表現する子どもの育成 ～「6年間の自分ものがたり」の実践を通して～	浅井　優子 （岡崎市葵中）	

○ 全体会・講評15:30～16:00

椙山女学園　大学教授
磯　部　錦　司　　先生　　会場：体育館

公開授業・実践研究協議・全体講話

1　公開授業の様子

豊岡小学校では、「豊かな材料に十分に触れて特徴をつかむ」「自分の思いを実現するために多様な表現を体感する」ことを通して、自分の表現を広げたり深めたりする実践に取り組んだ。

各実践の中では、見立てやイメージの手掛かりになる形や色に注目させるなどして、様々なアプローチの仕方で、材料や表現に十分に触れながら、表現を深める姿が見られた。また、試し活動や友達との交流を通して、材料や表現の特徴の中から、自分のイメージに合うものを取捨選択し、思いを広げながら、表したいものを確かなものにしていく姿も見られた。

【２年題材：ならべてつないで　キラピカ　ワールド】

≪１年　「マジック！シュシュシュ！！」≫

前時に大画面に行ったパチックの経験を生かし、一人一人が思いに合った色水を選ぶことができた。

作品づくりを通して、パチック表現のよさや面白さに気付くことができた。

≪２年　「ならべてつないで　キラピカ　ワールド」≫

色セロハンやプラスチック段ボール等の材料を豊富に準備したため、材料の特徴を生かし、身体全体を使った活動や友達との関わりを広げながら、表現を思いっきり楽しむ姿が見られた。

【４年題材：森生まれた世界】

≪３年　「発見！ふしぎな生物」≫

子どもに身近なアルミホイルを使い、試しの場を設定して材料の特徴や可塑性に気付かせながら、思い思いの不思議な生物を楽しく想像 て表すことができた。

≪４年　「森から生まれた世界～ようせいの遊び場～」≫

毎日目にする校庭にある古墳に住む妖精の遊び場の設定や自然素材の使用で、想像が膨らみ、十分に材料の形や色を組み合わせることができた。また、友達からのアイデアを取り入れたり、助け合いながら表現活動を意欲的に行った。

【５年題材：シャドーモンスター】

≪５年　「シャドーモンスター」≫

授業の導入時に実物投影機とプロジェクターを使い、変化する影の面白さに気付かせることができた。材料の映り方を理解し、思いを膨らませ、材料の組み合わせ方や光の当て方を考えて思い思いに表現した。

≪６年　「これがお墨付き」≫

試し活動を行ったことで、墨という材料に十分に触れ、墨の表現のよさや美しさを感じ取ることができた。また、表現方法を組み合わせ、大きな画面にダイナミックに表現する姿が見られた。

２　授業実践協議の様子

どの分科会も熱心な討議がなされた。授業の中で育てたい各視点が達成されたかについて話し合われた。１年生の協議では、「霧吹きの噴霧は、子どもが体験しながらよい回数を捉えるようにして　試行錯誤から学ぶことも大切ではないか。」３年生の実践協議では、「アルミホイルと材料を限定したことで気付きが共有できた。」６年生の協議では、「友だちの作品を鑑賞する中で、子どもたちはその美しさを価値付けることができ、深い学びに結び付ける様子が見られた。」などの意見や感想が聞かれ、高め合う様子が見られた。

【授業実践のグループ協議の様子】

【指導助言の先生から】

名古屋市教育センター指導主事塚本雅子先生からは、「１・２年生ともに大変すばらしい実践だった。子どものつぶやきから、わくわくドキドキする様子、形や色に着目する様子や驚きなどが感じられ、視点１は達成されていた。視点２も、主体的で深い学びにつながる子どもの姿があり達成できたと言える。」との助言があった。

【授業の視点の話し合い】

東海市船島小学校教頭佐藤雅浩先生からは、「３年生の授業は、材料・壁・友達などと十分に関わり、発見の連続があった。学年をまたいだ展開も期待できる。４年生の授業で使われたホットボンドは、安全指導が徹底されていた。今後も基本的には使い方については模範を示し、教師の目の届くところで行わせたい。」と助言があった。

椙山女学園大学教授磯部錦司先生からは、「５年生の授業は、造形遊びと立体のどちらともとれる内容だったが、授業を見て区別しなくてもよいと思った。６年生の授業は、お墨付きとしたところがよい。子どもには、美しい表現でと伝えるよりも、お墨付きと伝えた方が、子どもにとって作品づくりの必然性が生まれる。」との助言があった。

３　実践研究協議の様子

名古屋市立東丘小学校原敏史先生の実践「心のもよう」では、直方体や立方体の角材を、彫刻刀や小刀で削り出し、思い思いの形に仕上げる実践が発表された。実践協議では、「木材にどのように出会わせたのか」という質問がなされ、発表者からは、「最初は、木の肌触りや臭いなどに出会わせました。そして、木材に刃を入れるときになると、子どもは、木目や節目に意識が向かい、その面白さに気付いていきました。」との回答がなされた。感性を大切にして、その子なりの見方を広げながら、製作に取り組む様子が伝えられた。

【実践研究発表の様子】

あま市立七宝中学校近田芳明先生の美術館と連携したスクールミュージアムの実践では、「美術館との連携は大変だと思うが、打ち合わせや授業づくりはどのように進めていけばよいのか。」という質問がなされ、発表者からは、「愛知県美術館の鑑賞学習の体験をきっかけにして、交流が始まった。予定などを細かく決めると逆に動きが取れなくなるため、大体の時期で決めておき、無理をしないことが大切だと思った。交流を進める中で作家とも知り合いになって活動が広がった。」との回答があった。

美術館と連携を図る上での視点が伝えられた。

【熱心に実践研究を聞く参加者】

4　全体講話

≪椙山女学園大学　磯部錦司先生≫

本日の授業を基に、愛知大会のまとめが行われた。

○授業では教師の投げ掛けが「やってみたい」という姿を引き出し、想像の具体化が丁寧に行われた。

○イメージが先にあるわけでなく、視覚や触覚を通して、感じることの耕しから始まる。だから試しが大切である。今回の導入は大成功だった。

○「これは使えるな」という声は造形を通した自分とのコミュニケーションである。造形活動上のコミュニケーションは、他者との対話だけではない。

○造形的な見方・考え方に、感じ方を入れてほしい。感性は能動的なものもあり、知識になると思う。

【椙山女学園大学教授磯部錦司先生による講話】

伊勢山中学校　会場

○ 公開授業Ⅰ 9:50～10:40　　公開授業Ⅱ 10:55～11:45

○ 授業実践協議 13:00～14:15

※○視点 ：大会テーマに設定された四つの視点のどれにあたるかを示している。

学年 授業会場	題　材　名 ●領域　○視点	公開授業Ⅰ・Ⅱ 授　業　者	授業研究協議 司　会　者	授業研究協議 指導助言者	協議会場
1年 体育館	オーダーメイドの鞄デザイナー ●デザイン　○視点３	Ⅰ 石谷和佳子 吉田　有希	吉川　友行 （名古屋市原中）	大泉　義一 （早稲田大学准教授）	体育館
2年 格技場	増殖する形 ●彫塑　○視点１	Ⅱ 森岡　隆大 吉田　有希			

○ 実践研究協議　14:25～15:20

実践研究主題	提案者	協議会場
子どもの思いを大切にし、つくる喜びを味わわせる造形教育を目指して ～素材選択課題「光と影の空間演出」～	茂川なつき （大府市大府南中）	体育館
鑑賞学習における、段階的な学びを促すワークシートの研究と実践 ～学習過程が反映された作品鑑賞文の作成を目指して～	山口　千草 （小牧市桃陵中）	

○ 全体会・講評　15:30～16:00

早稲田大学　准教授
大　泉　義　一　　先生　　会場：体育館

公開授業・実践研究協議・全体講話

1　公開授業の様子

≪公開授業１　「オーダーメイドの靴デザイナー」石谷和佳子先生　吉田有紀先生≫

それぞれの生徒がカードにあるオーダーに合った鞄をデザインした。それぞれのグループの机上や特定のコーナーでは、布やビニール、革といった素材が用意されている。生徒は、その素材に直接手で触れながら、オーダーをかなえるイメージをわかせていた。また、ワークシートを工夫することで、言葉や説明から発想を広げていく生徒と、アイデアスケッチを描きながらイメージを膨らませる生徒に対応することができるようにした。なかなか思いつかない生徒には、２人の教師が「これは、どんな素材が合うかなぁ？」「動きやすいためには、どんな工夫があるといいかなぁ」と問い掛けることで、つくりたいイメージを膨らませたり、絞ったりすることができるようにしていった。

【授業公開1の様子】

≪公開授業２　「増殖する形」森岡隆大先生　吉田有紀先生≫

「くねくね」「ダムダム」といった連続する擬態語や擬音語などのオノマトペから発想した形を粘土でつくり、増殖させ、自分が表したい主題を導き出す。できた形から発想を広げ、自分の心象にまで迫った主題を設定する生徒も何人かいて、そういった生徒は、その主題から、また形に変化をつける様子が見られた。粘土の可塑性を生かし、何度もつくりなおす姿が見られ、つくり進めることにより、一層こだわりをもってつくることができた。

【授業公開2の様子】

また、ルーブリックとして、何をどれぐらいできたのかを振り返り、各生徒が確認することができるようにした。

２　授業実践協議の様子

研究協議会では、椅子をコの字型に並べ、４人程度の参加者が向き合うことができるように工夫をして行われた。各グループに話し合いのテーマと時間を与え、話し合った内容を共有し合う形式で話し合いを進めた。

公開授業１に関しては、相手意識をもたせた授業だったことや、生徒同士の関わりを大切にした授業展開の在り方に対する意見が出た。

公開授業２に関しては、「増殖」という一つのものを組み立てていくことは、生徒が取り組みやすく、発想を広げていく面でよい、という意見が出た。

それぞれのテーマにおいて、熱心な議論がなされた。「生徒の主体性を育むには、どのようにしたよいのか」「教師が表現に許す許容範囲は、どもまでか」「美術科にいて、与えることと、委ねるところの判断は、そのようにしているのか」といった意見が出た。

３　実践研究協議の様子

≪実践発表１　「子どもの思いを大切にし、つくる喜びを味わわせる造形教育を目指して
～素材選択課題『光と影の空間演出』～」大府南中学校　茂川なつき先生≫

素材を生徒自身に選択させることで、自分自身の人生を創造する糧となってほしい、という思いから実践が行われた。ランプシェードの構想を練る上で話し合いや調べ学習を丁寧に進められた。光は、その素材によって様々な効果を表す。生徒は、光の効果を様々に試し、何度もつくりかえながら制作をした。生徒は、自ら素材を選択し、表したいことを追求していくことで、つくる喜びを味わうことができる実践が行われていた。

≪実践発表２　「鑑賞学習における段階的な学びを促すワークシートの研究と実践
～学習過程が反映された作品鑑賞文の作成を目指して～」小牧市立桃陵中学校　山口千草先生≫　鑑賞活動において、思ったことやワークシートを工夫することで、文章を書くことが苦手な生徒が、感じたことを整理し、伝え合うことができるようにした。作品を印刷したワークシートに直接感じたことや思いを書き込んだり、自分の考えを色分けして文字や記号を書き込んだりすることができるように工夫をした。

ワークシートを工夫することで、じっくりと作品と向き合い、思ったことや感じたことを共有し合うことができるようにした実践が行われた。

４　全体講話

≪早稲田大学　大泉義一先生≫

「主体的で対話的な学び」ということについての大泉先生の見解を皮切りに全体指導、講評が行われた。「対話的」ということは、見えやすく取り入れやすい。しかし、対話はあくまでも手段である。

【全体会の様子】

また、主体的などということも美術科においては前提とされている事項である。

「させる」から「する」に転換する必要がある。つまり生徒がする（したくなる）ように教師がする。ということが大切である。

学習環境をデザインすることも大切である。教師が生徒に指示してあげるのが大切なことではない。準備や環境整備が大切なのであって、授業が始まるときには、ほぼ終わっている。授業は、条件設定と生徒の選択の機会の相互関係で成り立っている。

「主体的で対話的な学び」ということについての大泉先生の見解を皮切りに全体指導、講評が行われた。「対話的」ということは、見えやすく取り入れやすい。しかし、対話はあくまでも手段である。また、主体的などということも美術科においては前提とされている事項である。

「させる」から「する」に転換する必要がある。つまり生徒がする（したくなる）ように教師がする。ということが大切である。

学習環境をデザインすることも大切である。教師が生徒に指示してあげるのが大切なことではない。準備や環境整備が大切なのであって、授業が始まるときには、ほぼ終わっている。授業は、条件設定と生徒の選択の機会の相互関係で成り立っている。

評価について述べると、「感性」や「思いやり」といったことは評価観点としてふさわしくなく、外れる。よって美術科においては、個人内評価を大切にしてほしい。

石谷先生の実践には、他者への思いやりのコメントが見られ、森岡先生の実践ではインフォーマルな会話の中にあたたかさが見てとれた。

瑞穂ヶ丘中学校　会場

○ 公開授業Ⅰ 9:50～10:40　　公開授業Ⅱ 10:50～11:40

○ 授業実践協議 13:00～14:15

※○視点 ：大会テーマに設定された四つの視点のどれにあたるかを示している。

学年 授業会場	題材名 ●領域 ○視点	公開授業Ⅰ・Ⅱ 授業者	授業研究協議 司会者	授業研究協議 指導助言者	協議会場
3年 体育館	お気に入りを Share ●絵 ○視点3	Ⅰ 秋田 英彦	松岡 健児 （名古屋市駒方中）	米山 慶志 （名古屋市教委指導主事）	体育館
1年 格技場	失われた謎の一面を追え！ ～名古屋城本丸御殿障壁画の鑑賞を通して～ ●鑑賞 ○視点4	Ⅱ 佐久間貴子			

○ 実践研究協議　14:25～15:20

実践研究主題	提案者	協議会場
見方や感じ方を広げながら、イメージを明確にして実現する生徒の育成 ～「私のオリジナル○○シリーズ切手」に実践を通して～	三浦 英生 （刈谷市依佐美中）	体育館
美術科における表現の資質・能力を育成するための授業改善 ～学習経験・能力・発達特性の実態を踏まえ、自ら課題解決に取り組もうとする「点描」の 授業展開を通して～	杉浦 雄三 （高浜市高浜小）	

○ 全体会・講評15:30～16:00

文部科学省初等中等教育局視学官
文化庁参事官（芸術文化担当）付教科調査官
東 良 雅 人　先生　　会場：体育館

１　公開授業の様子

【３年　お気に入りをＳｈａｒｅ】では、学級全体で撮影した写真を共有し、鑑賞しながら、グループのテーマに合う写真を選択して組み合わせることができていた。一枚一枚の写真は徐々にぼかしたり、ズームアップしたりと様々な効果を演出していた。操作は代表者が行いながらもグループのメンバーでその効果を確認・協議しながら制作を進めていた。写真が連続して映像として流れるようになる様子に生徒はわくわくしながら制作をしている様子が見て取れた。

【3年　お気に入りを Share】
授業者：秋田英彦

【１年 失われた謎の一面を追え！～名古屋城本丸御殿障壁画の鑑賞を通して～】では、表書院二之間の障壁画を鑑賞して各自が捉えたポイントをクラス全体で共有し、グループで意見交換しながら、失われた一面のアイデアスケッチを行った。図鑑などの資料を参考にしてモチーフを描き出す際には、どうしたらグループで重視した障壁画のポイントに合った配置や配色になるかを話し合い、工夫しようとする様子が見られた。本丸御殿の模型でアイデアスケッチを確認する場面では、スクリーンに映し出された部屋の様子に目を輝かせ、さらにグループで意見交換する姿が見られた。

【１年 失われた謎の一面を追え！
～名古屋城本丸御殿障壁画の鑑賞を通して～】
授業者：佐久間貴子

２　授業実践協議の様子

秋田先生の授業に対し、「映えは子どもに入りやすい題材」「魅力的なＩＣＴ活用の題材」という評価が多い中、「グループのテーマ決めに時間がかかっていた」「個人のテーマが不明確になってしまった」等の指摘もあった。

佐久間先生の授業に対し、「よく関わりながら活発に話し合っていた」「伝統的な良さを子どもが受け入れてイメージできていた」という評価が多い中、「グループで協議した後に個で描いては」「描くより言葉だけでもよかったのでは」等の指摘もあった。

【授業実践協議の様子】

【指導助言の先生から】

≪名古屋市教育委員会指導室指導主事　米山慶志先生≫

名古屋市の学校教育の努力目標は「なかまと学び、夢を創る」であるが、今回の２つの授業は、まさにこの目標をめざした授業だった。

秋田先生の授業はネットワークが身近になってきた時代にＰＣを美術の授業で取り上げるのは必然であり、やる価値があるものだった。

グループでの授業は評価が難しいが、今回のような実践では、データを上書き保存でなく、個別に保存し残していくことで振り返ることができる。佐久間先生の授業は、魅力的な題材で、名古屋ってすばらしいってことが味わえるものだった。描いた謎の一面を模型に差し込むことで、４面の内の１面であることを立体的に感じ取ることができてよかった。今回は班活動であったが、個別の活動を共有する形でもよかったかもしれない。個とグループの学びを工夫していってほしい。

【指導助言する米山指導主事】

３　実践研究協議の様子

三浦英生先生（依佐美中）は、「見方や感じ方を広げながら、イメージを明確にして表現する生徒の育成」を研究主題に掲げ、一人一人が４枚の切手をデザインするという実践を発表した。

参加者からは「なぜ、切手なのか」という質問が出た。実践者からは、「切手は実際にいろいろなものがあり、テーマを自由に設定することができる。四季などのテーマで４枚に変化をつけてデザインさせた」と回答があった。

【実践研究　発表の様子】

また、３回もの試作の意味を問う質問がでたが、アクリル絵の具での試作を通して、グループで話し合い本制作につなげるというねらいがあることが確認された。

杉浦雄三先生（高浜小）は、「美術科における表現の資質・能力を育成するための授業改善」という研究主題のもと、点描の実践を発表された。

参加者からは、「根気よく制作するために、主題をどのように設定したのか」という質問が出た。これに対して実践者からは「生徒は自分が写っている『輝いている瞬間』の写真をもってくる。自分の写真なのでモチベーションがあがった」との回答があった。

【実践研究協議の様子】

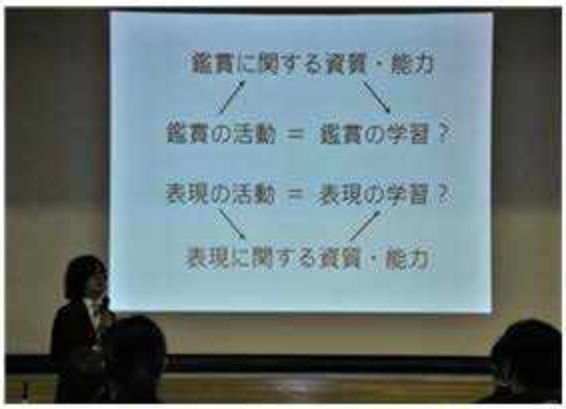
また、色鮮やかな点描画には取り組まないのかという問い掛けもあったが、実践者からは「点描に色も加えると高度になりすぎる。今回は白黒に留め、明暗を捉える力を評価した。」と答えられた。

４　全体講話

≪文部科学省初等中等教育局視学官　東良雅人先生≫

まず、大会では、研究授業をした人に全員が感謝し、テーマをもとに議論し、子どもの学びをよりよいものにして、授業者に返すことが大切。

次に、指導案にある「今日のめあて」が実現できていたかどうか振り返る必要がある。単に鑑賞の活動、表現の活動をしたという捉えではなく、鑑賞の力がついてこそ鑑賞の授業、表現の力がついてこそ表現の授業である。そこに、学びがなければ美術の授業にならない。２人の授業は、鑑賞の力を高めるための表現の活動のような側面があったのでは。



【文部科学省初等中等教育局視学官
東良雅人先生による講話】

身につける力を明確にしておかないとどちらかわからなくなる。発想・構想に関する資質・能力、技能に関する資質・能力が身に付いているかという観点から振り返るとよい。

最後に、強く表したいことを心の中に思い浮かべることができる題材を設定することである。教師の必然性が強い題材は、子どもの必然性が弱くなる。子どもの目線に立って、学んだことが心に残る授業を我々はしていかないといけない。

愛知大会　来場者の声　（大会アンケートより）

Ⅰ　テーマ・日程等、大会全般について

	大変良かった	良かった	あまり良くなかった	良くなかった
回答数	68	68	3	0
割合	49%	49%	2%	0%

Ⅱ　11/21（木）全体会について

1　講演について

	大変良かった	良かった	あまり良くなかった	良くなかった
回答数	45	30	0	0
割合	60%	40%	0%	0%

2　運営等について

	大変良かった	良かった	あまり良くなかった	良くなかった
回答数	41	33	2	0
割合	54%	43%	3%	0%

Ⅲ　11/22（金）分科会について

1　公開授業保育・研究協議について

	大変良かった	良かった	あまり良くなかった	良くなかった
回答数	103	31	1	0
割合	76%	23%	1%	0%

2　運営等について

	大変良かった	良かった	あまり良くなかった	良くなかった
回答数	91	41	5	0
割合	66%	30%	4%	0%

【ご意見・ご感想から】

○美術教育が目指すべき方向が明確なテーマで、１０年前の愛知大会での発信とつながっていてとても良かった。（愛知・豊田）

○教科の本質を突いたとても良いテーマだと思います。（２名）

○テーマもシンプルでかつ大事なことだと、改めて考えることができてよかったと思います。

○「感性豊かに共に生きる」…とても大切なことでありながら、与えられる情報を受けることが多く、感性は、子供たちから失われていきそうになっている。その感性を豊かなものにするために、その手立てとして人や地域と関わっていくことがとても大切だと共感した。
○これからの時代だからこそ、図画工作科の重要性を自分自身も自信をもって語られるようになった。
○新しい学習指導要領をよく分析されて視点を考えられていて、とても参考になった。(香川)
○感性という個の部分と、共に生きるという人とのつながりの部分が感じられた（岡山）
○技術の向上だけでなく、主体性や子どもの心が動くときを大切にした発表を聞いて、とても共感できた(愛知・刈谷)
○造形について、表現について、子供たちに何が育っていくのか、何を育てていくことが大切なのか考えるよい大会だった(愛知・刈谷)
○無理なく話を聞くことができた
○テーマは大変良いと思った。表現活動の前提である豊かな感性、生活体験がとても大切だと思っているので、今後も重きを置きたいと思う。（愛知・名古屋）
○造形教育から子どもが考え活動する姿が見られ、勉強になった。子どもが気づくことができるような配慮・援助を園で実践したい。（愛知・名古屋）
○授業を２つ、講話を２つ聴くことができ、大変勉強になりました。
○記念講演を外し、文部科学省の二人の話に時間を取った勇気に敬意を表します。（奈良）
○公開保育が１日だったが十分よかった（兵庫）
○実践を見られて、とても勉強になった。（２名）
○小学校の場合、出やすい時期で助かりました。（愛知県・豊橋）
○日程は、行事も終わり、評定を出す前の良い時期だと思った。（島根）
○会場が駅から近くアクセスも良いと感じた。（愛知・名古屋）
○愛知で開催されたので参加しやすかった。（愛知・名古屋）
○交通の便がよく、無理なく移動ができました。充実した２日間となりました。お世話になりました。
○「名水」の配布がうれしかった（島根）
○業者ブースは、実物を見られて（お土産ももらえ）よい機会でした。（島根）
○ここまで準備してこられた先生方の苦労を思うと頭の下がる思いです。

●先生方の熱量や授業準備は伝わってきたが、単元編成や学びの必要性の点で不足があったと思う。（愛知）
●せっかくなので両調査官が授業をどのように見られたのかを聞きたかったので、２日目が全体会の方がよい。
●日程は、この時期は少し厳しかった。期末テスト・進路相談などあるので（３名）
●働き方改革で会合が少なく、勤務先への影響が少なくて良かった一方で、頼りとなる伝達資料・要項に何かとミスが多く、当日も運営側からの説明が無かったり、急に変わったり、何をどこまでするのかがあいまいで辛かった。（愛知・豊田）

など、成果・課題のたくさんのお声をいただいた。